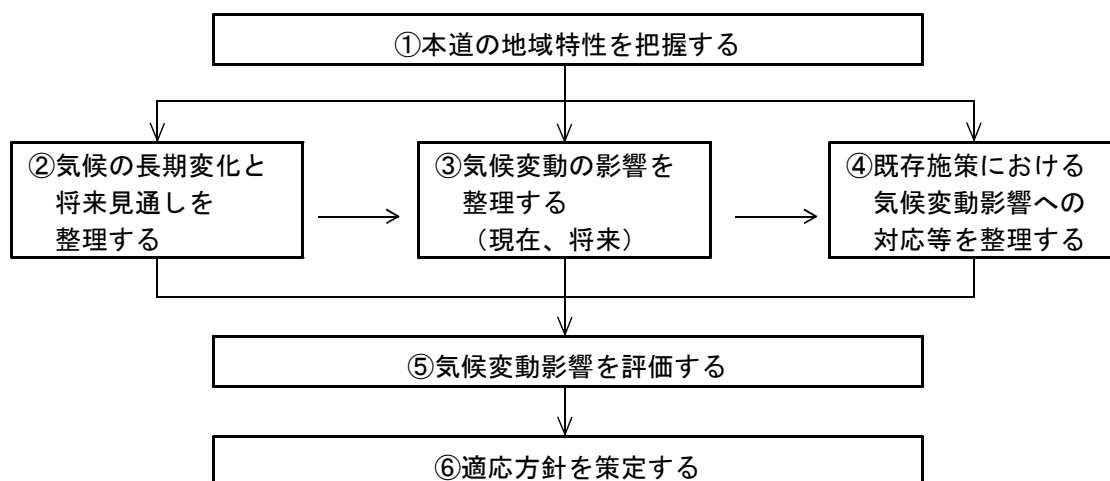


## 2 方針策定の考え方

「適応」に取り組む基本的な方向性を検討する上では、地域特性を把握し、気候変動の長期的な変化と将来の見通しとそれに伴う各分野への影響の評価が必要となります。

適応方針の検討にあたっては、平成28（2016）年8月に環境省が示した「地方公共団体における気候変動適応計画策定ガイドライン（初版）」を参考に、以下のステップで進めます。



### ステップ①：本道の地域特性を把握する

気候変動の影響は、地理的・産業的・社会的特性などの地域特性によって大きく異なります。まずは、本道の地域特性について整理します。

### ステップ②：気候の長期変化と将来見通しを整理する

地域における現在までの気候の長期変化と将来見通しについて知る必要があります。気温、降水量、極端な気象現象等の現在の状況と将来見通しを整理します。

### ステップ③：気候変動の影響を整理する

気候変動の影響とその将来予測についても知る必要があります。気候変動の影響が現在、どのように現れているか、将来どのように予測されているのか整理します。

### ステップ④：既存施策における気候変動影響への対応等を整理する

道の各部局で既に取り組まれている施策等のうち、「適応」に関する施策等について整理します。

### ステップ⑤：気候変動影響を評価する

ステップ①から④の作業を踏まえ、本道にとって特に優先度の高い分野・項目を特定します。

### ステップ⑥：適応方針を策定する

影響評価の結果を踏まえ、適応方針を策定します。